

第7表 中規模校の教授編成

学年	担任	分担 教科	自 学 級	教 科 担 任					複 数		合 併 体	合計	担当 時間
				社	理	音	図	家	理	音			
1.1	A		国社数理音図体道特 7 2 3 2 2 3 2 1 1							AB 1	AB	25	26
1.2	B		〃							AB 1	1	25	26
2.1	C		9 2 4 2 1 2 2 1 1							CD 1	CD	26	27
2.2	D		〃							CD 1	1	26	27
3.1	E	社図	国社算図体道特 8 3 5 2 2 1 1		G 3	G 2					EF	28	29
3.2	F	社図	〃		H 3	H 2					1	28	29
4.1	G	理音	国算理音体道特 8 6 3 2 2 1 1	E 4			E 2				GH	30	29
4.2	H	理音	〃	F 4			F 2				1	30	29
5.1	I	社	国社算図体道特 7 4 6 2 2 1 1		M 3	J 2		J 2	I M 1		I J M	32	29
5.2	J	音家	国算音図体家道特 7 6 2 2 2 2 1 1	I 4	M 3				J M 1		1	32	29
6.1	K	社	国社算図体道特 7 4 6 2 2 1 1		M 3	L 2		L 2	K M 1		K L M	32	29
6.2	L	音家	国算音図体家道特 7 6 2 2 2 2 1 1	K 4	M 3				L M 1		1	32	29
	M	理体											18

この編成は、学年団を単位とし、合併授業については、学年でチームを組み、教科は体育を取り入れているが、音楽や図工も考えられる。複数授業については、低学年に音楽、高学年に理科を実施するようにしているが、中学年に音楽、高学年に社会をあげることもできよう。交換授業については、学年団のチームで教科を分担し、複数で協力し、その質を高めようとする。教科は一般的に国語、算数を除くのがよいと思われる。

大規模校の教授編成については、学年単位の編成になり、合併授業は、学年内でいくつかの集団が構成されることになり、制約も少なくなるだろう。交換授業については、構成が容易なので、大

規模校では中心になるだろう。具体例は前者を学年単位にすることなので省略する。